

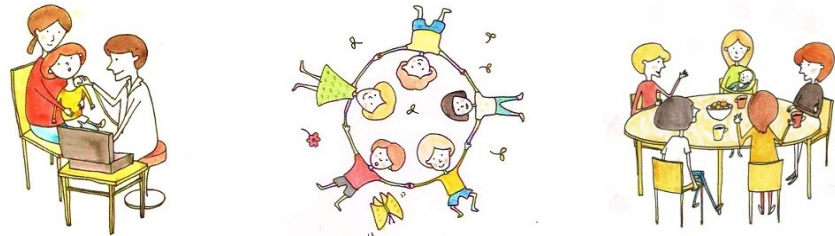
いずみ

題字 丹治正雄氏

活動が始まりました！

はじめまして。日本キリスト教団東北教区放射能問題支援対策室いずみです。

放射能汚染により傷ついている人々に対して、様々な方向からの支援と心のケアを展開する東北教区の機関です。仙台を拠点として、放射能問題における情報発信と連携のキーステーションとなることを目的として、2013年10月から活動を始めています。



『健康相談と検診』『保養プログラム』『訪問と傾聴』という3本の柱をもとに様々な活動を行っていききたいと思います。

私たちの小さな働きが、原発事故で疲れ・不安を抱えた方々にとって“いずみ”となることができますように…

ごあいさつ

支援対策室いずみ室長 保科 隆(日本キリスト教団仙台東一番丁教会牧師)

放射能問題支援対策室「いずみ」は、2013年5月の東北教区総会の決議に基づいて設置されたものです。特に海外からの資金援助を受け、また教団からも、さらには全国の教会や個人からも支援を受け、その活動を2013年10月からスタートさせることができました。活動として三つのことを考えています。

1.『健康相談と検診』 この件に関しては、大阪教区から支援を受けて進められてきた医師による「子どもの健康相談」と専門の医師による定期的な甲状腺のエコーによる検診を続けます。 2.『保養プログラムの実施』 原発事故後に福島の子どもたちは遊び場を失いました。子どもたちが安心して遊べる場を提供し、親子で保養できる場をつくりまします。 3.『訪問と傾聴』 放射能汚染の問題を抱える地域を訪ねて、直接皆さんの声に耳を傾けます。

いずみ開所式

2013年11月1日、いずみの開所式が東北教区センター「エマオ」にて執り行われました。

礼拝から始まり、いずみの顧問を務めてくださっている篠原弘典氏(原子核工学の専門家)による特別記念講演会、その後お茶を頂きながら各地各団体から励ましのメッセージを頂きました。

篠原氏は講演の中で「最初から放射能被害は起こらないと決めつけるのではなく、とにかく測定し、検査し、調査してデータを取り、(中ページへ)



それを積み重ねて起こっていることを判断し、どのように対処したらよいかを考えることが大事。5年後10年後にどのようなことが起こるのか、冷静な目と温かい目で見つめることが大切です」と話されました。

当日は教団から長崎哲夫総幹事、会津放射能情報センターから片岡輝美代表、仙台キリスト教連合被災支援ネットワーク(東北ヘルプ)の吉田隆代表、そして北日本宣教協力のつながりから邑原宗男奥羽教区総会議長の4名の方々より励ましのお言葉を頂きました。また、久世そらち北海教区総会議長からのメッセージも披露されました。



こちらのニュースレターの題字もそうですが、いずみの看板を教団福島教会の丹治正雄さんが祈りを込めて認めてくださいました。

式には仙台市内の市民活動グループの方々もたくさん駆けつけてくださいました。ありがとうございます。放射能の問題を考えると、私たちの活動は無力に近い程小さいものですが、たくさんの方々の祈りとお支えに助けられ、いずみは新しい一歩を歩み始めました。



礼拝説教は小西望牧師(仙台北教会・東北教区総会議長)、奏楽は松本芳哉さん(東北教区センター「エマオ」館長)、そして全体の司会進行は片岡調也牧師(若松栄町教会)が担当してくださいました。

親子の保養プロジェクト in 手のひらに太陽の家

2013年10月26～27日にかけて一泊二日の日程で第一回目の親子保養プロジェクトを行いました。場所は宮城県登米市の保養を目的として運営されている「手のひらに太陽の家」です。残念ながら短期の保養では医学的には効果が期待できないかもしれませんが、しかしいずみでは放射能の不安について語り合い、共有できる仲間と出会える場として、お子さん、親御さんがリラックスできること、子どもたちを一時的にでも外で思いっきり遊ばせることに焦点を当てています。



参加しやすいようにバスを貸し切り、みなで向かいます。「手のひらに太陽の家」では自由にくつろげることを大切にしつつ、一緒に料理を作ったり、温泉に行ったり、公園に行っておもいっきり遊んだり…そういう中でお母さんたちは放射能に対する不安や様々な問題について語り合い、子どもたちは思う存分遊びます。

第1回目は台風の接近があり、3組の参加でしたが、手のひらに太陽の家には丁度良いタイミングで全国各地からマッサージ師、エステティシャンの方々が集まっておられ、子どもも大人もマッサージを受け、お母さん方はエステでお肌がピカピカに！うれしい出会いがありました。今回のつながりをきっかけに、後々自分たちで保養に出かけた家族もあったようです。一人一人が孤立しているのではなく、人と人をつなげていく、そういう役割も担えたら…そう思います。

保養プロジェクトのご案内

『親子の保養プロジェクト(近距離)』

仙台近郊で放射線量の比較的低い場所への保養です。福島の各地、仙台市から貸し切りバスが出ます。

『親子短期保養プログラム(遠距離)』

北日本宣教会議の保養プログラムの実務をいずみが引き継ぎます。沖縄・北海道での一週間程度の保養です。どちらも詳細はホームページをご覧ください。お電話でのお問い合わせも可能です。

仙台市内での甲状腺検診

2013年12月8日(日)、第1回目のエコーによる甲状腺検診を仙台市内で行いました。北海道がんセンター名誉院長の西尾正道先生をお招きし、子どもから大人まで計52名の方が検診を受けられました。仙台市内における市民団体規模のエコーによる甲状腺検診は今回が初めてでしたが、市内においても放射能の人体における「不安」「恐れ」は大きく、ニーズの高さを改めて実感しました。

当日検診を受けた方からは「安心しました」「継続的に行ってください」とのお声を頂きました。検診を受ける機会がないため、「知らされていない」「わからない」ということに対する不安も大きいように感じます。

信頼できるデータの蓄積が今後の重要なカギとなってくるとのこと。いずみでは今後も甲状腺のエコーによる検診を定期的に行っていく予定です。



講演会

いずみでは放射能の問題や今後の対応について、様々な分野の専門家をお招きして講演会・学習会を開催しています。

開所式のご報告でも触れましたが、2013年11月1日は篠原弘典氏が「福島原発事故による放射能被害と向きあうために」とのテーマで、福島第一原発事故で起こったことから現在の状況、原子力・放射線被ばく研究の歴史などをわかりやすく解説してくださいました。

また、2013年12月8日は甲状腺検診に続き、仙台青葉荘教会を会場に西尾正道氏の講演会を開催いたしました。



西尾先生による講演会を終えて

放射能問題支援対策室いずみスタッフ 後藤重雄

西尾先生は北海道がんセンターの名誉院長で、ご自身の放射線がん治療の経験に基づき、「子どもたちの甲状腺検査から見えてきたこと」と題して、専門的な知識をベースに、今日のマスメディアが伝えない事実とそれに対する見解を丹念にお話し下さいました。講演には、100名以上の聴衆が集まり、半数の方が提出してくれたアンケートでは「ただし情報をありがとう」、「放射能の専門医の考え方が参考になった」といった賞賛と感謝の言葉が多くみられました。



西尾先生の講演会を聞いて・・・(アンケートに基づく感想)

- ・内部被ばくの恐ろしさをひしひしと感じた。従来のあいまいな放射線への理解に確かな見方を与えられた。
- ・甲状腺検査がこれから将来もっと多くの病院で受けられるようになったらいいなと思いました。
- ・目からウロコの医学界情報がたくさん聞けて、とても刺激になりました。
- ・本当のことを知らなすぎて怖くなりました。
- ・子どもたちへの影響について少し知ることもできたので、もっと調べて子どもたちを守らないといけないと思いました。

感謝報告

いずみの活動をおぼえて祈りとともにたくさんのご支援を頂き、心から感謝申し上げます。日本基督教団への指定献金も合わせてこちらにご報告させていただきます。記載落し・ミス等ございましたらご連絡ください。尚、教団からいずみに献金の報告が届くまでに若干の時差があります。すでに教団宛にいずみへの指定献金をお捧げいただいても、こちらに記載されていない場合がありますのでご了承ください。(敬称略・順不同・特別記載のない団体は教団の教会・団体です)

個人献金

一色義子、邑原宗男、三浦信子、今野ゆう子、板橋恵美子、笹氣詳子、長崎哲夫、霜山哲夫・眞理子、保科隆、北尾不二子、笛木直子、吉川進、館岡美絵、阿部奈々

団体献金

奥羽教区、横浜指路教会執事会、仙台青葉荘教会東日本震災復興支援委員会、久里浜教会、天満教会、横浜港南台教会、仙台東一番丁教会(2)、遠州教会東日本大震災被災者支援委員会、三田教会、流山教会、宮崎清水町教会

献品

佐藤照子、札幌北部教会、太平こどもの家

以上感謝をもってご報告させていただきます。(2013年8月～12月末)

ご支援のお願い

いずみの活動は国内外のキリスト教支援活動によって支えられています。この活動をつづけていくために皆様のご協力をお願いいたします。

日本基督教団東日本大震災救援募金に「東北教区放射能問題支援対策室いずみ」への指定献金としてお振込みください。(2014年3月末まで。以降振込先口座の変更あり)

送金先 ゆうちょ銀行

振替口座 記号番号 00110-6-639331

加入者名 日本基督教団東日本大震災救援募金

通信欄に「東北教区放射能問題支援対策室いずみ指定献金」とお書きください。

運営委員・スタッフの紹介

運営委員長 小林休(鳴子教会)

室長 保科隆(仙台東一番丁教会)

運営委員 明石義信(常磐教会)

顧問 篠原弘典(原子核工学専門家)

保科隆(仙台東一番丁教会)

スタッフ 後藤重雄

布田秀治(いずみ愛泉教会)

後藤祈

最上千絵子(仙台北教会)

日本キリスト教団東北教区放射能問題支援対策室いずみ

UCCJ Tohoku District Nuclear Disaster Relief Task Force "IZUMI"

〒980-0012 仙台市青葉区錦町1丁目13-6

TEL/FAX 022-796-5272

メールアドレス izumi@tohoku.uccj.jp

ホームページ <http://tohoku.uccj.jp/izumi/>

室長 保科隆(日本キリスト教団仙台東一番丁教会牧師)